

VRS等のエリアマネジメント活動推進事業

VRS：バリュー・リノベーションズ・さの=官民連携による効果的なまちづくりを推進していくための組織として設立された会社

①抱えていた課題

商店街の周辺地域の人口減少や、店舗の老朽化・店主の高齢化・後継者不足などの理由で閉店する店舗が増え、商店街の空き店舗が顕著に目立つようになり、特に駅浜側の商店街においては、年々人通りが減少するなど、閑散とした状態が続いており中心市街地の活性化が課題であった。

②課題に対する取組み

中心市街地のエリアマネジメントに取り組むまちづくり企業（VRS）を設立し、中心市街地周辺の商店街や地権者等関係者と連携して中心市街地内の活性化に取り組むための機運を高めるワークショップの開催や、中心市街地周辺の関係人口を増やすための遊休不動産のビジネス利用など、エリアマネジメントを推進し、活性化に繋げていくとともに、空き店舗の解消と女性等の社会進出を支援することで、持続的なまちの活性化へと繋げる取組みを実践しています。



③目指している将来像

商店街及び周辺エリアに、女性等が働ける場所を設置し、恒常的に人が集う仕組みを構築することで持続的にまちの活性化へつなげ、また、ワークライフバランス（仕事と家庭の両立）が可能なプチ起業「小商い」や、テレワーク等の働き方改革を推進する就業の場として、中心市街地における雇用機会の創出・提供を行い、老若男女が生き生きと輝けるまちづくりに取り組むことで、商店街をはじめ、中心市街地の再生へと繋がりたいと考えています。

④企業様に向けたメッセージ

泉佐野市は、沿岸部では都市基盤が整備され、未来志向のまちづくりが進められていますが、少し足を延ばすと、江戸時代からの歴史情緒溢れる街並みが今なお残っており、都市部から来られた方々から評価いただいています。しかしながら、こうした街並みも高齢化や人口減少の影響や平成30年度の台風21号が大きな爪痕を残し、そのことが原因で、その景観も失われようとしています。そういった環境下ですが、上記のVRSに代表される、使われていない遊休不動産（空き物件）を活用した民間主導のプロジェクトも誕生し、活動を始めています。そうした「LOCAL」な取り組みこそ、東京一極集中と叫ばれる今日にこそ大事な取組みだと思えます。こうした取組みが、今後の地方で活躍できる人を発掘し、地方を活性化させ、日本全体の活性化へと繋がっていくことを確信しています。これからの泉佐野市の取組みに引き続きご期待ください。

～この泉佐野市の取組みを応援、ご支援いただける企業様を募集しています～